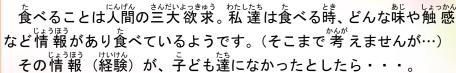
#### U—~``MF\$\\\$~`V\EJ\(EJ@\$\@\)

がつにた さぎょうりょうほうし きしょしゆき し こうわ6月7日、作業療法士の岸良至氏の講話。

#### ~<u>「食事」・「食べること」ということ</u>~

保護者10名が参加されました。



「これはなに?」と思って、食べ物を色んな角度から見たり、細かく 分解したり、一回口に入れて美したり・・・。

子どもの行動が、マナー違反でも、直ぐに怒るのではなく、 「どうしてかな?確認しているのかな?」と思うことが大切。

『知らないものを口に入れる恐怖を共感して欲しい!』

たいへん。またん。かん。つづため、かんたん。大変で負担に感じ続かない為、簡単なものが良い。

その後は、「実際に感じてみよう。」ということで体験。 しつぎょうとう 質疑応答など。

「食べることは深いな~」と感じた時間でした。
リーベルのホームページに詳しく掲載しています。ご覧ください。



#### ー 君が僕の覚子について教えてくれたことー

自閉症の若者とイギリス人作家の出会いを描いたドキュメンタリー映画です。





#### よろしくお願いします♪



8月1日より動物しています鶴田真也です。 ます鶴田真也です。 以前は精神保健福祉社士として精神科の病院 や児童相談所で勤務していました。

まだ経験は浅いですが、少しでも早く皆様の お役に立てるよう一生懸命頑張りますので、 どうぞよろしくお願い致します。

#### **りーベルホームページへようこそ**

URL: http://liber-yame.net

- ・<u>福祉ブック Web版</u>・事業所マップ
- ・入所施設・グループホーム空き情報
- ・ 交流会やイベント情報・分科会などの報告書

リーベルホームページを是非ともご活用ください。 ご意見・ご要望もお待ちしております!

第39号 八女地区障害者基幹相談支援センター

平成29年 10 月 27 日



# リーベル通信



発行責任者:NPO法人八女地区障害者相談支援センターリーベル

住所:八安市本前17-2 電話:0943-22-2610 FAX:0943-22-2664

E-mail: liber-yame@marble.ocn.ne.jp URL: http://liber-yame.net

へいせい ねんどだい かい

けんしゅうかい

## 平成29年度第1回リーベルネットワーク研修会平成29年8月1日に平成29年度第1回リーベルネットワーク研修会を

開催しました。今回は佐賀を拠点に不登校、ひきこもり、非行等不適 開催しました。今回は佐賀を拠点に不登校、ひきこもり、非行等不適 応問題を抱える子ども達やニート、フリーター等若年者の自立支援に 取り組んでおられる NPO法人スチューデント・サポート・フェイス (S. S. F.) より谷口仁史先生をお招きしてご講演いただきました。「ど んな境遇の子ども・若者も見捨てない!アウトリーチ(訪問支援)と



こりっか しんこくか 孤立化・深刻化しているケースにおいては、専門性も一定の信頼を得られなければ発揮することが



できない。単一の分野、機関、担当者では限界があり、特に一つの専門性では得意な視点で見ようとする傾向があり、環境面と併せて関係機関が連携した重層的な支援を展開する、過去に受けた支援のアプローチ方法を検討する、価値観のチャンネルを合わせる、配慮のない体験は苦手意識を生むこと等々、実例をもとに教えていただき沢山のヒントを得ました。「仕方がない、先送り」ではなく、今回の研修タイトルである「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない」という決意をもってこの八女地区でも取り組んでいきたいと思います。





### ことも分科会

こんなんどだいかいめていれいかい みなきま やめ しかていじどうそうだんしつ たかくらじょし 今年度第1回目の定例会は皆様おなじみ八女市家庭児童相談室の高倉女史 よりこどもの緊急時対応についてご講話いただきました。家庭児童相談室 の活動から児童相談所、学校、相談支援事業所等との連携まで支援体制や しまなないい ですない とうそうだんしょん できない とき きょうしょなど しまなないない とき きょうしょなど しょなないない マンドル ロース ない になっていた とうそうだんしっ いってい いました これがり アンドル・スープ によっていた とうそうだんしつ いってい いました まま かいわり アンドル・スープ によってい になっていた とうそうだんしつ いってい いっこう



高急さん

支援過程についてお話しいただき、改めて家庭児童相談室が担う役割の いつもありがとうございます 重要性を認識しました。「こどもの未来を守るために」というお話の中では、家庭児童相談室は現場ではないため、学校や事業所等現場でこどもや親の変化に気づいてほしい、こどもが揺らいでいるときは家庭が揺らいでいるときという認識が必要であること等、発見への意識をもつことが大切であることを 伝えていただきました。「寄り添うこと」「親を責めない」「あせらない」「一人で抱え込まない」とまとめられ、「愛着は他人でもつくれる、つくり置せる」という言葉が胸に響きました。



### 世活支援分科会



生活支援分科会では、今年度のテーマの一つ「余暇支援」について研修会を開催しました。 第1回首は、地域活動支援センターとの意見交換会。八女市内の3ヶ所の担当者に来ていただきました。 地域生活支援事業の概要や事業内容(I型、I型、I型の役割の違い)を確認し、各事業所の取り組みなどを伺いました。「地活」の存在自体を全く知らなかった事業所もあり、関心深く質問をいただきました。 グループホームからも地活からも様々な意見をいただき、今後、地活同士でイベントを開催するなど、地域での役割を集たして行きたいと心強いお話。をいただきました。

第2回目は、「移動支援」。



各事業所における余暇支援の役割や 実状、そして課題も知ることが出来 ました。

今回の研修を八女地区の在宅者の \* 余暇支援について、協議する足掛かり にしたいと思います。





### そうだんしえんぶんかかい相談支援分科会





こんねんど そうだんしえんぶんかかい 今年度の相談支援分科会は、『相談支援専門員としての視点や取り組む 姿勢について学び、資質向上を図る。相談支援事業所の役割について考え、学ぶ機会を持つ』を主たる目標に掲げ、分科会を開催しています。第1回目では、基幹相談支援センターの役割や業務内容について伝え、リーベルの役割を知っていただくことを目的に開催しました。

第2回目は10月13日(金)に開催。講師に障がい者しごと支援センター木の実、糸島市障がい者相談支援センター木の実の施設長 三善史博氏を迎え、相談支援専門員とサービス管理責任者による合同研修会を開催。障害福祉サービス提供事業所の皆様に、相談支援専門員に対するアンケートに回答いただいた内容を基に、三善氏より講義いただき、グループワークを行いました。

相談支援専門員は適切かつ最善のサービス選択の手伝いをする人、
ちゅうりつこうへい
中立公平であること、サービス管理責任者は事業所内で重要な役割に
あり、個別支援計画はスタッフへの支援指示書でもあること等、それぞれの役割の再認識ができました。講師の実践経験を交えたリアルな講義
内容が、楽しくも、ビシっと背筋を伸ばし直して、今後の仕事に取り組む姿勢に繋がる研修会でした。



※八女地区の障害福祉サービス提供事業所のみなさま、 アンケートへのご協力ありがとうございました。 就勞

## 即等支援分科会



今年度の就労支援分科会の事業計画は『初心に戻り、基礎的なところに取り組んでいく』を掲げ、八女地区福祉事業所の工賃向上を目指す・ はあるうしまな 就労支援の質を上げる・事業所間の顔が見える関係作りを目標に活動していきます。

年5回の分科会を開催予定ですが、顔が見える関係作りの第一歩として、初回は名刺交換会を行いました。他4回は事業所見学会を行っていきます。他事業所を見学することで自分の事業所の取り組みについて考える機会をもち、就労支援の質を高めることで工賃向上に繋がればと思っております。

8月31日(木)は、就労移行支援事業として久留架市の「障害者自立 が記れた。 訓練サポートセンターわ〜よか」と、就労継続支援B型事業所として 広川町のレストラン「のぞえ風と虹」の見学後、グループワークを行い ました。お互いを高め合える八女地区の事業所になることをご期待くだ さい。





また、10月7日(土) 道の献たちばなにて『しょうがい者福祉ショップ』が開催されました。昨年度は分科会の一環として開催しましたが、今年度からは有志の福祉事業所の皆さんが集まり、分科会から独立して初の販売会。当日は、お天気にも恵まれ、活気ある販売会になりました。

# 自立支援協議会



10月20日(金)、第20回八女地区障害者等自立支援協議会が開催されました。社会福祉法人明和会の井上会長の挨拶に始まり、八女地区相談支援の傾向から今後あるべき支援について検討を行いました。

う後の福祉の取り組みについては、以下の確認を 行いました。

第4期障害福祉計画(平成27年~29年)の基本方針において平成29年度までに各市町村または圏域に「地域生活支援拠点等」の整備があげられ

ており、八女地区では昨年11月に立ち上げた検討委員会を中心に進めること。また、高齢化・過疎化によるのうぎょうになってがそく、にょうがした。 かまるの屋用推進を踏まえて農業と福祉の連携による「農福連携」についても今後の重要検討課題であり、積極的に推進を行うことの2点です、障害がある方が安心して生活できる住みやすい八女地区を目指してまいります。

今年度の基幹相談支援センター全国研修会が 9月24日から 25日にかけて東京で開催され、参加してきました。初日、障害者総合支援法の動向についての情報とともに、講義として虐待通報時の事実確認の面接技法や主任相談支援専門員の役割、災害時の相談支援専門員が行うべきことなどを学び、二日目には、グループスーパービジョンを事業所内で積極的に取り入れていくことは相談支援専門員の人材育成の方法として専うこう